
アスパラ

ロイ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アスパラ

【Nコード】

N9021A

【作者名】

ロイ

【あらすじ】

中学三年生の女の子【わたし】が主人公です。ある男の子【あなた】に片想いを三年間しています。でも、【あなた】は美人で性格も良い【あの子】の事が好きで…

（前書き）

aikoさんの「アスパラ」と言う曲から書いたお話です。ちょっと大袈裟かも…

あの子の前を、上手に通る癖覚えたのは…

もう随分前の事。

「あーあ。長いなあ…」

私は深い溜め息をついた。中学に入つての3年間。私は、あなたに振り向いてもらおうと必死だったのに。

目も合わせてもらえなかった。

なんて馬鹿馬鹿しい事したんだろ…あなたはいつも、私の方じゃなくて違う方見てるの。

「何見てるのかな？」

気になって視線をたどつて行くと、見てるものは毎回事同じ。黒くて真っ直ぐな長い髪、真っ白な肌。パツチリした瞳。

私とは正反対。

あの子を認めるつもりは無いけど、あの笑顔を見たら、自信が無くなるの。

だから、あの子の前をわざと通り過ぎる事で、私に気付いて欲しくて…

けど…ある日。聞こえてきたんだ。私の耳には。

あの子を想う気持ち、声になって…
その先は言わないで！聞きたくない！

耳をふさいでも、 magari 角の向こうから…あなたの声が。

アイスは、溶けると冷たくなって、ただまずいだけ。
私の心もおいしくないわ…

折れた鉛筆の先って、どこへ飛んで行くんだろう？
鉛筆の先が折れながら、あなたに宛てて書いた手紙、結局いつも渡
せなかった。

そんな事考えながら、昼のお弁当を頬張る。あなたはやっぱり、あ
の子と一緒になんだね。

私ってバカだね。どうしてあんな事したんだろう。

そんなに自分を傷めつけたいの？お昼だもん。二人で仲良くしゃべ
ってるに決まってる。

でも私の体は、二人がいるであろう、空き教室に向かって行ってし
まう。これじゃストーカーじゃない。

「あ…」
いた…！

あなたは、今まで私が見たこともないくらいの幸せそうな笑顔だっ
たね。あの子とお弁当がお揃いだ…きつとあの子が作ったんだな。
料理もできるんだね。

ほんとに完璧な子なんだ。

二人の笑い声が一つになって…私ったら、だめだなあ

走り去る、この廊下、とても遠い…

喉が渴いて、ただ痛いだけ。廊下の窓から、私をジリジリ照り付ける日差しが、とてもいらつく。

すごく泣きたかったのに…

私の顔はなぜか

「認めるしかないなあ」

って笑ってた。

それって言うのはきっと、あの子のあの笑顔のせいだよ…

さつきから、汗が止まらない

一時の廊下

思わず目を閉じた夏の日。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9021a/>

アスパラ

2010年10月10日05時23分発行